科目名			担当教員	
心理学研究法Ａ 心理学研究法Ⅰ			佐藤　俊人・大関　信隆 名和　界子・朝岡　陸	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
FB3538 FB3508	2	1	RorSR (講義)	２年以上
履修登録条件		「心理学実験ＩＡ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。		
生成 AI 利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※2017 年度以前に入学した方は「心理学研究法Ⅰ」、2018 年度以降に入学した方は「心理学研究法 A」を履修登録してください。

※2017 年度以前入学者で 2018 年度までに「心理学研究法Ⅰ」のスクーリングが未受講の方は、本科目の内容を参照してください。

※2017 年度以前入学者で 2018 年度までに「心理学研究法Ⅰ」のスクーリングに合格済の方は、『レポート課題集Ｃ（心理専門編）2018』掲載の「心理学研究法Ⅰ」（科目コード FB3508）を参照してください。

※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■科目の内容

この科目は、心理学において使われる代表的な方法について、基本的な理解を図ることを目指しています。代表的な方法の一つである「実験法」については、別に「心理学実験ＩＡ・ＩＢ・Ⅰ」、「心理学実験ⅡＡ・ⅡＢ・Ⅱ」として科目が設定されているので、ここでは、実験法以外の方法について取り上げることにします。

心理学は、実証的学問です。実証的というのは、量的または質的なデータを収集し、それを分析して、その結果に基づいて論を展開するということです。したがって、どのようなデータをどのような方法で収集するかということが、心理学の研究においてはきわめて重要な意味を持つことになります。つまり、心理学の研究において使われる方法は、正確にデータをキャッチできるものであるだけでなく、客観的に評価される科学的なものでなければなりません。同時に、心理学の研究の対象は、多くの場合、人間ですから、どのような方法を使う場合でも、そこには一定の倫理性が保たれていなければなりません。この科目では、単に研究法の習得を目指すだけでなく、倫理性・科学性の問題を含めて、心理学における方法論の理解を目標にします。

なお、この科目のスクーリングは必須ではありませんが、できうる限り参加することをお勧めします。

■到達目標

１）心理学研究を実施する上で配慮すべき倫理について説明できる。

２）独立変数や従属変数など、心理学研究の基本的な考え方を説明できる。

３）心理学研究における「観察法」、「面接法」、「質問紙法」のメリットとデメリットについて説明できる。

４）「面接法」、「観察法」、「質問紙法」を用いた研究計画をたてることができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「実証的分析力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 60%＋スクーリング評価 or 科目修了試験 40%

■教科書・参考図書

【教科書】（ 2）は「心理学実験ＩＡ・Ｉ」などと共通）

１ ）大村彰道編著『教育心理学研究の技法』（シリーズ・心理学の技法）福村出版、2000 年

２ ）『福祉心理学科　スタディ・ガイド〔第 4 版〕』Ⅲ章　東北福祉大学（第 4 版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2022 年 4 月

※教科書 1）は履修登録時に配本します。

※教科書 2）の配本方法については「心理学実験ＩＡ・Ｉ」の教科書欄をご覧ください。

（スクーリング時の教科書）教科書 1）『教育心理学研究の技法』は必ず持参してください。

【参考図書】

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編著『心理学研究法入門』東京大学出版会、2001 年

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦著『心理学研究法』放送大学教育振興会（NHK 出版）、2003 年

海保博之・大野木裕明・岡市広成著『心理学研究法［新訂］』放送大学教育振興会、2008 年

大野木裕明・渡辺直登著『心理学研究法（改訂新版）』放送大学教育振興会、2014 年

高野陽太郎・岡隆編『心理学研究法』有斐閣、2004 年

『心理学マニュアル　研究法レッスン』『心理学マニュアル　面接法』『心理学マニュアル観察法』『心理学マニュアル　質問紙法』『心理学マニュアル　要因計画法』北大路書房、1997～2000 年

高橋順一ほか編著『人間科学研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版、1998 年

日本発達心理学会監修『心理学・倫理ガイドブック』有斐閣、2000 年

『発達研究の技法』『臨床心理学研究の技法』『社会心理学研究の技法』『性格研究の技法』『認知研究の技法』（シリーズ・心理学の技法）福村出版、1999～2000 年

大山正監修『心理学研究法 1～6』誠信書房、2011～2015 年

『心理学研究法』（1～17）東京大学出版会

三浦麻子監修・著『なるほど！　心理学研究法』（心理学ベーシック 1 ）北大路書房、2017 年

N. J. サルキンド著・畑中美穂訳『心理学研究法のキホン Q&A100』新曜社、2017 年

W. J. レイ著・岡田圭二訳『エンサイクロペディア　心理学研究方法論』北大路書房、2003 年

森正義彦・篠原弘章『心理学研究法』培風館、2007 年

伊藤正人『心理学研究法入門』昭和堂、2006 年

吉田寿夫編著『心理学研究法の新しいかたち』誠信書房、2006 年

大山正ほか著『心理学研究法』サイエンス社、2005 年

丹野義彦編『臨床心理学研究法』誠信書房、2004 年

山本力・鶴田和美編著『心理臨床家のための「事例研究」の進め方』北大路書房、2001 年

鈴木淳子著『調査的面接の技法』ナカニシヤ出版、2002 年

松浦均・西口利文編『観察法・調査的面接法の進め方』ナカニシヤ出版、2008 年

安藤清志・村田光二・沼崎誠編『社会心理学研究入門』東京大学出版会、2009 年（補訂新版 2017 年）

やまだようこ編『現場（フィールド）心理学の発想』新曜社、1997 年

田尾雅夫・若林直樹編『組織調査ガイドブック』有斐閣、2002 年

スクーリング

■スクーリング受講条件

スクーリング申込締切日までに福祉心理学科専門必修科目・選択必修科目・選択科目 A 群の科目から 7 科目分のレポート（4 単位科目は 4 課題などその科目の全てのレポート）を提出していること（心理学実験を含めても可・提出していれば不合格や未採点のものがあっても可。S 科目はレポートがないので含められない）

■スクーリングで学んでほしいこと

この科目は、心理学において使われるいくつかの代表的な研究方法のうち、「観察法」「面接法」「質問紙法」について取り上げ、これらの基本的理解を目指します。最初の 1、2 コマで、研究法を理解することの重要性、データをもとに考察することの注意点を考え、3、4 コマめには研究における倫理の問題と質問紙法の概観についての講義を行います（佐藤俊人）。その後「観察法（名和界子）」「面接法（大関信隆）」という、日常生活の中にも対応できる研究の手法について、その特徴および効用と限界について具体的に考えます。

■講義内容

回数	テーマ	内容	担当
1	心理学研究法概説①	心理学における研究の進め方	佐藤 朝岡
2	心理学研究法概説②	方法論についての概論	
3	心理学における研究と倫理	研究における倫理的問題を考える	
4	質問紙法	質問紙法の基本的理解	
5	観察法①	観察法の基本的理解と実際	名和
6	観察法②	観察法の効用と限界、実際の際の留意点	
7	面接法①	面接法の基本的理解と実際	大関
8	面接法②	面接法の効用と限界、実施の際の留意点	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

1～4 コマめは配付資料と板書で進める。5～8 コマめはパワーポイントと配付資料をもとに進める。
質問紙法・観察法・面接法のそれぞれの時間に、確認小テストをおこなう。

■スクーリング　評価基準

- 授業への参加状況（10%）＋「観察法」、「面接法」に関するスクーリング試験（各 45%、合計 90%）により評価する。
- 各試験では、単なる知識の確認ではなく、各研究方法の特徴をふまえたうえで、指定されたテーマあるいは自分自身の興味・関心に基づいて、適切な研究計画を立案することができるかどうかについて問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

受講者は、受講前に本冊子「心理学研究法 A／Ⅰ」のページ、さらに『福祉心理学科　スタディガイド』のⅢ章「心理学研究に取り組む」をよく読んできてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

スクーリング終了後、「観察法」「面接法」を実際に用いた研究論文を配付します。配付された研究論文の中から 1 つを選び、そこで用いられている方法についてまとめ、考察を行うことが「心理学研究法 Aor Ⅰ」のレポート 2 単位めの課題となります。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	心理学における様々な研究技法 （教科書 1） 1 章）	心理学研究において、様々な研究技法（アプローチ）を習得することの重要性を理解する。 キーワード：研究技法、観察、面接、質的分析、質問紙調査、実験	テキストでは、著者の研究を具体例とし、自分の研究アイデアを実現する上では様々な研究技法を習得し、使い分けることの重要性が述べられています。この点を学習し、これ以降の学習の動機づけとしてください。
2	倫理的問題（教科書 1）p.14・56・105 および「心理学研究　倫理」で Web 検索	心理学の研究を進める際の倫理的な問題の重要性を学ぶ。 キーワード：研究倫理	他の学問同様、心理学でも研究倫理が強く求められます。論文、レポートの書き方はもちろんのこと、研究の目的や手法が対象者の不利益にならないように、最大限の配慮をする必要があります。他の心理系科目で紹介されているような実験や研究の中で、倫理的に現在では実施できないようなものがないかを探してみてください。
3	観察法の基本的理解 （教科書 1） 2 章 1 節）	観察法の 2 つの流れについて、さらには、それらを使い分けることの重要性ついて理解する。 キーワード：自然科学的観察法、参与観察	以下の点について説明できるように学びを進めてください。 ・自然科学的観察法の考え方と基本原則 ・伝統的な観察法の限界とそれを補う手法としての参与観察・2 つの観察法はどのような目的で用いられるのか
4	観察法の実際①（教科書 1） 2 章 2 節）	自然観察法を用いた研究事例にふれることで、自然観察法によるデータ収集の方法とデータの分析手法について理解する。 キーワード：自然観察法、符号化	研究事例では、2～3 歳児の「泣き」や他児の「泣き」に対する反応の個人差を検討するために、自然的観察法が用いられています。その際、「泣き」のエピソードやそれに対する反応を符号化し、分析可能なデータとすることが大切になります。具体的な符号化の方法や内容に着目しながら、理解を深めていってください。
5	観察法の実際② （教科書 1） 2 章 3 節）	実験観察法を用いた研究事例にふれることで、実験観察法によるデータ収集の方法とデータの分析手法について理解する。 キーワード：実験観察法	研究事例では、子どもの「恐れ（用心深さ）」や「てれ」の表出についてデータを得るために、実験観察法が用いられています。この研究事例を通して、実験観察法の利点について考えながら、学習を進めていってください。

6	観察法の手順と留意点 （教科書 1） 2 章 4 節）	・自然観察法と実験観察法の違いとそれぞれの利点・欠点について理解する。 ・観察法における現象の切り取り方やその記述の仕方について理解する。 ・観察データの信頼性と妥当性をチェックすること。 ・倫理性を意識することの重要性を理解する。 キーワード：偶発的観察法、組織的観察法、日誌法、事象見本法、時間見本法、場面見本法、逐一行動描写法、カテゴリーチェック法、評定尺度法、観察者（評定者）がおかしやすい誤り、操作的定義、生態学的妥当性	まずは、観察法を自然観察法と実験観察法に 2 分し、それぞれの利点と欠点について整理していってください。また、観察法を用いた別の研究を見たときに、現象の切り取り方や記述の仕方という観点からその研究を整理できるように、理解を深めていってください。
7	面接法の基本的理解 （教科書 1） 3 章 1 節）	•「面接法（調査面接）」と「日常会話」 の違いについて理解する。 •「面接法（調査面接）」の利点と留意点について理解する。 キーワード：リサーチクエスチョン、臨床面接、調査面接	「面接法（調査面接）」と「日常会話」の違いについては、3 点指摘されています。次に面接法を用いた研究実践を学ぶ際に、この 3 点がどのように具体化されているかを確認していけるよう、学習を進めてください。
8	面接法の実際① （教科書 1） 3 章 2 節）	構造化面接を用いた研究事例にふれることで、構造化面接によるデータ収集の方法とデータの分析手法について理解する。 キーワード：構造化面接、ラポール、プロトコルデータ	研究事例では、絵本における挿絵間の因果関係の理解がどのように発達するのかを検討するために、構造化面接が行われています。具体的な構造化の内容、さらには、データを分析する際の具体的指標などに着目しながら、学習を進めてください。また、研究協力児が面接に際し過度に緊張しないようになされた工夫についても学ぶ意義があると思います。
9	面接法の実際② （教科書 1） 3 章 3 節）	非構造化面接を用いた研究事例にふれることで、非構造化面接によるデータ収集の方法とデータの分析手法について理解する。 キーワード：非構造化面接、記述モデル、仮説生成	研究事例では、母親の適応（発達）過程の特異性・独自性を検討するために、非構造化面接が行われています。非構造化面接とデータ分析を通した仮説形成の過程について学びを進めてください。
10	面接法の手順と留意点 （教科書 1） 3 章 4 節）	・面接法の特色、その利点と限界（留意点）について理解する。 ・面接法の手続きと各過程における留意点を理解する。 キーワード：再現可能性・追試可能性、プロトコル分析	面接法の利点と留意点について、第 7 回目の学習内容と合わせて説明できるよう、学習を進めてください。

11	質問紙法の基本的理解 （教科書 1） 5 章 1 節）	・質問紙法の利点と限界（留意点）について理解する。 キーワード：構成概念	テキストには「教育心理学研究のいくつかのアプローチの中で、質問紙法によるアプローチはもっとも多用されている」と述べられています。質問紙法のメリットとデメリットについて他の研究法と比較しながら理解するようにしてください。
12	質問紙法の実際② （教科書 1） 5 章 4 節）	・研究事例で扱われている構成概念が、具体的にどのような質問項目でどのように測られているかを理解する。 ・因子分析がどのような目的で用いられているかを理解する。 キーワード：因子分析	因子分析の説明がテキスト第 5 章第 5 節に書かれています。そちらを学習した上で、研究事例の分析について学習を進めるとよいでしょう。
13	質問紙法の手順と留意点 （教科書 1） 5 章 5 節）	・質問紙法の手続きと各過程での留意点について理解する。 ・既存する質問紙を使用する場合、その尺度名だけではなく、具体的な質問項目についてもチェックすることの必要性について理解する。 ・「相関関係」と「因果関係」の違いについて理解する。 キーワード：尺度の信頼性、尺度の妥当性、相関関係、因果関係	尺度の「信頼性」と「妥当性」について説明できるようにしましょう。質問紙法を用いた研究では、変数間の相関関係を踏まえて、変数間の因果関係について検討することがあります。「相関関係」と「因果関係」の違いを正しく理解することは、結果の考察を行う上でも重要になります。「相関関係」と「因果関係」の違いについて説明できるように学習を進めてください。
14	心理学研究の基本①仮説を立てる （教科書 2） Ⅲ章 17 第 3 版では Ⅲ章 20）	「桶屋の清兵衛」という物語を通して心理学的な研究計画の立て方を学ぶ。キーワード：仮説、独立変数、従属変数	14 回目・15 回目の学習内容はこれまでの学びの前提にある、「心理学研究を進めるにあたって基本となる事柄」です。今回の学習内容の観点からこれまで学習した研究事例の幾つかを見返してみてください。
15	心理学研究の基本②構成概念を具体化し、測定する （教科書 2） Ⅲ章 18 第 3 版では Ⅲ章 21）	物理的には測定できない構成概念の測定方法について学ぶ。 キーワード：構成概念、構成概念の具体化、評定尺度法	14 回目と同様に、今回の学習内容の観点から、これまで学習した研究事例の幾かを見返してみてください。

■レポート課題

この科目は 2 単位です。したがって、提出しなければならないレポートは 2 つですが、1 単位めは客観式レポート課題に解答してください。2 単位めは、「心理学研究法 A／Ⅰ」のスクーリングを受講するかどうかによって、取り組む課題が異なります。つまり、「心理学研究法 A／Ⅰ」のスクーリングを受講しない人は課題 1 に、受講する人は受講後に課題 2 に取り組みレポートを提出することになります。課題 1 では⑴～⑶の中からいずれか 1 つを選んでください。

なお、1 単位めの課題と 2 単位めの課題のうち、どちらの課題を先に行っても構いません。

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め	**課題 1（スクーリングを受講しない人が⑴～⑶の中からいずれか 1 つを選んで解答）** ⑴ 気の長い人と短気な人を観察法によって見分けるための研究をするとしたら、どのような観察を行うかを中心に、研究計画を立てなさい。 （担当：名和界子） ⑵ 小学生における食事の好き嫌いに影響する要因について面接法で研究するとします。半構造化面接によって調査を行うとしたら、どのような研究計画になるか考えなさい。 （担当：大関信隆） ⑶ 子どもの攻撃性の高さに対するテレビの影響というテーマで、質問紙法を使って研究するとしたら、どのような研究をするか、研究計画を立てなさい。 （担当：名和界子） **課題 2（スクーリングを受講する人が解答）** スクーリング終了時に配布される研究論文の中から 1 つを選び、 Ⅰ．選択した研究の①目的、②仮説、③方法をまとめなさい。 Ⅱ．選択した研究と同じ目的や仮説で研究を行うとすれば、あなたは「観察法」「面接法」のどちらの方法を用いるか、そして、なぜその方法を選択するかについて述べなさい。 （担当：「観察法」名和界子、「面接法」大関信隆） ※課題 2 の場合、レポート課題記載欄は研究論文名を記載してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■レポート提出上の注意

⑴ 課題の字数は 2,000 字程度ですが、4,000 字程度まで記入することも可です（パソコン印字の場合左右 40 字×30 行×4 枚まで）。

⑵ 2 単位め課題 1 が取り組みにくく感じる方や再提出が続く方は、この科目のスクーリングを受講してから提出してください。

⑶ 2 単位め課題 1 に合格した方もスクーリングを受講することができます。その際、2 単位め課題 2 の提出は不要です。

⑷ スクーリングを受講しない方は、通常の科目と同様に科目修了試験受験の必要があります。この科目のスクーリング試験、科目修了試験ともに、心理学研究法の基礎的な理解がないと合格が難しい傾向にありますので、充分学習をしてから臨んでください。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

課題 1（スクーリングを受講しない人が⑴～⑶の中からいずれか 1 つを選んで解答）

課題 1⑴～⑶は同じ種類の課題ですので、まとめて解説します。それぞれの課題には、テーマと使用する方法が指示されています。この科目の目標は、研究法を学習することにあるので、それぞれの方法についての学習を進めたうえで、つまり、それぞれの方法について十分理解したうえで、指示に従って研究の計画を立てるというのが課題です。次のような学習の進め方をし、そのうえで、以下に示すような内容のレポートにまとめてください。

１ ）教科書の 1 章を読んで、研究の進め方についての全体的な理解を図ってください。

ここには、研究の進め方についての一般的な考え方と、実際の研究に基づいた研究の進め方の例とが書かれています。１節の１と２をまず読み、次に３節を読んで理解してから、２節の事例を読んだ方がわかりやすいかもしれません。また、２章以降のそれぞれの方法についての理解を確立した後で、もう一度２節を読むと、より一層理解が深まると思われます。

２）次に、それぞれの方法（２章から５章）について理解します。それぞれの方法について１節に「～法への招待」、２節に研究紹介、３節に「～法の手順と留意点」という構成で書かれていますので、まず１節を読んで、その方法についての基本的な理解を確立し、次に３節を読み、一般的な理解が進んでから、２節の研究例を通してその方法についての具体的な理解を図るという学習の仕方が望ましいでしょう。

３）この段階で、観察法、面接法、質問紙法の３つの方法についての理解ができたことになります。次に、課題1⑴～⑶のどれかを選んで、そこで使うことになっている方法について改めて読みなおして、理解を確実なものにしてください。特に、各章２節を参考にすることになりますので、そこはしっかり読みましょう。なお、課題1⑵に取り組む際「半構造化面接」の意味を辞典、参考図書で調べて理解する必要があります。

４）いよいよ課題に取り組みます。それぞれに示されているテーマは漠然としていますので、まず研究の目的をはっきりさせることから始めます。つまり、そのテーマにそって、最終的に何を明らかにしたいか、ということをまず考えなければなりません。

課題 1⑴は「気が長いか短気か」ですからはっきりしていますが、次のように取り組むとよいでしょう。「気の長い・短い」は、心理学ではこれまでどのような分野で扱われてきたのでしょうか。これから研究計画を立てようとするテーマに関連した行動をある程度特定することが必要です。例えば、「気の長い・短い」は、これまでもよく「のろま・ぐず」とか「せっかち・早とちり」などと称されてきたものに近いかもしれないことに気づくでしょう。そこで、その行動は日常生活のどんな場面でよく見かけるか考えてみてください。このように研究しようとする行動とその「気の長い・短い」の（自分なりの）定義をし、仮説を立てて研究内容を絞り込むことです。その後、研究対象、観察場所、時間、観察行動などを考えてください。観察の手法は、自然的観察だけでなく、その行動が良く見かけるように仕掛けた実験的観察でもよいでしょう。組織的な観察法を用いる場合は、観察チェックに必要な行動カテゴリーをどんなものにするか考えることが必要です。その後の結果処理、すなわちデータがどう示されれば仮説が検証されると言えるのかを考えると良いでしょう。

課題 1⑵は「食事の好き嫌い」としか指定していないので、「食事の好き嫌い」ということをどのように捉えるかを具体的に考えなければなりませんし、同時に、「影響する要因」といっても、さまざまに考えられるわけですから、どんな要因を取り上げるかということも考える必要があります。この要因を考える際に、先行研究の知見がヒントになるかも知れません。ぜひ論文検索などを使って先行研究を探してみてください。

課題 1⑶も、「テレビの影響」といってもいろいろ考えられるので、そこをどう捉えるか、ということがポイントになります。

５）研究についての具体的なイメージができたら、次は「仮説」を立てるという段階です。「仮説」というと難しく聞こえるでしょうが、単純にいえば「どのような結果を予想するか」ということです。課題 1⑴でいえば、「気の長い人と短気な人の行動の違いは、こういうところに現れるだろう」と予想することであり、課題 1⑵では「食事の好き嫌いは、こういう要因が影響しているのではないか」と考えることであり、課題 1⑶では「子どもの攻撃性に影響するのは、テレビのこういう面ではないか」と考えることです。

この仮説がないと、研究計画が立てられないので、頑張って考えてください。

６）実際に研究を行うとなるといろいろ制約が出てきますが、ここでは机上で計画を立てるという課題なので、実行可能かどうかは考えないで、自由な発想で計画を考えてください。上記の仮説が明らかになったとして、いよいよ具体的な研究計画を考えます。研究計画の具体的内容については、課題ごとに説明します。仮説を明らかにした上で、

①課題 １ ⑴：１ ）観察の対象をどのような人にするか　また、その人数

２）観察の場所と時間

３）どのような行動を観察対象とするか◎

４）観察の仕方と記録の仕方◎

５）観察が終わった後で、どのように分析するか

②課題 １ ⑵：１）面接の対象をどのような人にするか　また、その人数

２）面接の内容（具体的な質問）と記録の仕方◎

３）面接調査が終わった後で、どのように分析するか

③課題 １ ⑶：１）どのような子ども（年齢・性別など）を質問紙調査の対象とするか

子どもたちが低年齢で質問紙に答えることが難しい場合は、どのような人たちを質問紙調査の対象とするか

２）どのような質問紙（具体的質問項目）を使うか◎

質問紙には、①視聴時間の長さや視聴時間帯あるいは単独視聴が多いのか複数（例えば家族で）視聴が多いのか、視聴番組の内容といった「テレビの見方や内容など」について＝独立変数を測定するための質問項目と②「攻撃性（の量的・質的な違い）」＝従属変数を測定するための質問項目が含まれていることになります。①については、「仮説」にしたがってどのような内容をどのような項目で尋ねたらよいか考えてください。また、②については、全部で６項目とします。そのうち、３項目は「すぐに暴力をふるう」「言葉遣いが荒い」「つまらない、ささいなことでイライラする」とし、残り３項目は攻撃性を調べる上で適切な項目を自分で考えてください。ぜひ心理学関連の辞典、辞書で「攻撃性」の意味を調べて見てください。その際、上で挙げた３項目の単純な言い換え（たとえば、「簡単に手を挙げる」「乱暴な言葉を使う」「ちょっとしたことで腹を立てる」など）にならないよう注意してください。

３）調査の仕方

４）調査が終わった後で、どのように分析するか

どの課題も、教科書のそれぞれの方法の「研究紹介」に示されている研究例を参考に計画を立ててください。紹介されている研究ほど綿密な計画でなくて構いませんが、基本的には同じような内容になります。また、レポートのポイントは、◎がついた項目です。

７）レポートの内容

レポートは、次のような内容にしてください。

①その課題を選んだ理由

②研究の目的と仮説

③研究計画

④その課題に取り組んで考えたこと、難しかった点、工夫したところ、疑問、感想など

課題２（スクーリングを受講する人が解答）

「研究法 A／Ⅰ」のスクーリングでは、「研究法の成り立ち」「観察法」「面接法」「質問紙法」に関して、その内容や効用・限界について解説していきます。また、この４つのテーマについて、より具体的に理解してもらうために、適宜実習を行います。そして、スクーリング終了後、「観察法」「面接法」の方法を実際に用いた研究論文を配布します。課題２は、これらの配布された研究論文の中から１つを選び、まず、その研究の①目的、②仮説、③仮説を確かめるために用いられている方法とその詳細についてまとめます。さらに、④この研究をさらに発展させるために、研究に含まれる問題点を考察し、それを改良する手段について考えを述べることが課題となります。

レポートは、次のような内容で作成してください。

①研究の目的

心理学研究においては、研究者が関心を向けた要因（従属変数）に対して影響を及ぼす別の要因（独立変数）が考えられ、この独立変数と従属変数の関係について検討が行われます。たとえば、『福祉心理学科スタディ・ガイド』Ⅲ章の「心理学研究法Ⅰレポート作成のためのヒント」について見てみると、清兵衛は「桶の売り上げ」に関心を向け（従属変数）、それに影響を及ぼす要因（独立変数）として、「風が吹くかどうか」や「店の雰囲気」を取り上げています。では、選択した研究論文において、研究者は独立変数、従属変数としてどのような要因を取り上げているのでしょうか。言い換えれば、どのような要因とどのような要因との関係を見ることが目的となっているのでしょうか。この点についてまとめてください。

なお、「①研究の目的」と次に述べる「②研究の仮説」は、研究論文では多くの場合、「問題と目的」の中に書かれています。また、研究によっては論文の題目を見るだけで、独立変数や従属変数が何であるかわかる場合があります。たとえば、「〇〇が╳╳に及ぼす影響」といった題目であれば、〇〇が独立変数であり╳╳が従属変数であることがわかります。

②研究の仮説

「①研究の目的」で述べた独立変数と従属変数について、独立変数は従属変数に対してどのような影響を及ぼすのでしょうか？　この点について研究者が調査前に考える「仮の答え」が仮説となります。たとえば、先ほどの例を再び用いると、清兵衛は「風が吹くかどうか」という独立変数が「桶の売り上げ」という従属変数に対して、「風が吹くと桶の売り上げが下がってしまう」という方向ではなく、「風が吹くと桶の売り上げが上がってくれる」という方向で影響を及ぼすことを仮説として考えています。そして、実際の研究では、データを集め分析した結果に基づいて、その仮説が正しいかどうかについての検討が行われます。ここでは、選択した研究論文の中でどのような仮説が考えられているかについてまとめてください。

なお、研究論文においてはこの仮説が必ずしも明確に書かれているわけではありません。その場合、研究者がどのような仮説を考えていたかについて論文の中から読み取ることが重要となります。このレポート課題でも、「①研究の目的」で明らかにした独立変数と従属変数との関係について、つまり、独立変数が従属変数に及ぼす影響の方向について読み取り明記してください。

③研究の方法

ここでは、大きく［A．調査の手続き］と［B．独立変数と従属変数とを測定するために用いられた尺度］についてまとめてください。以下、「観察法」「面接法」それぞれについて詳しく説明していきます。

「観察法」について

［A．調査の手続きについて］

１）どのような人たちが観察の対象となっているか。また、その人数

２）観察の場所や状況、所要時間

３）観察方法（自然観察法か実験的観察法か）

４）観察の流れと記録の仕方

［B．測定尺度について］

独立変数や従属変数を調べるために用いている行動カテゴリーや基準。そして、その行動カテゴリーや基準の具体的な内容。ここでは、独立変数と従属変数それぞれに対応する形でまとめてください。つまり、独立変数を調べるために用いた基準や行動カテゴリーとその具体的内容、そして、従属変数を調べるために用いた基準や行動カテゴリーとその具体的内容を分けてまとめてください。

「面接法」について

［A．調査の手続きについて］

１ ）どのような人たちが面接の対象となっているか。また、その人数

２ ）面接が行われた時期、所要時間

３ ）面接方法（構造化面接か非構造化面接か半構造化面接か）

４ ）面接の流れと記録の仕方

［B．測定尺度について］

独立変数や従属変数を調べるために用いている質問の具体的内容。ここでは、独立変数と従属変数それぞれに対応する形でまとめてください。つまり、独立変数を調べるために用いた質問内容と、従属変数を調べるために用いた質問内容を分けてまとめてください。

④研究に含まれる問題点の考察と改良手段について

研究には必ず問題点が生じます。それは研究テーマ自体であったり、対象者であったり、研究方法であったり、分析方法であったりと様々です。これら問題点が生じることは決して悪い事ではありません。

実際に研究を実施したからこそ見えてくる部分もありますし、またそれを発見することが次の研究に繋がる土台にもなるからです。大切なのは、自らの研究を振り返り次につなげることです。この④の課題ではそれに取り組んでいただきます。

上記で述べたような観点でも結構ですし、もっと別の観点でも構いません。筆者が探究しようとする本質をまずは十分理解し、その上でテーマや対象、手法や分析といった、様々な観点について自由に想像を巡らし、自らが研究者になったつもりで、その次の研究のプランを考察してみてください。記述する場合は、まず最初に問題がある個所を具体的に明示してください。次にその何が問題なのかを説明し、最後にそれを補う方法や考えについて言及してください。研究法で学習した種々の知識を総動員して取り組んでいただけると嬉しいです。

科目修了試験

■評価基準

- 問題設定の条件を満たしているか。
- 的確な言葉を用いて、論理的に説明されているか。
- 具体例を挙げてという設定に対し、①読み手にわかるように、②的確な具体例を挙げてあるのか。

以上の観点によって評価を行う。